



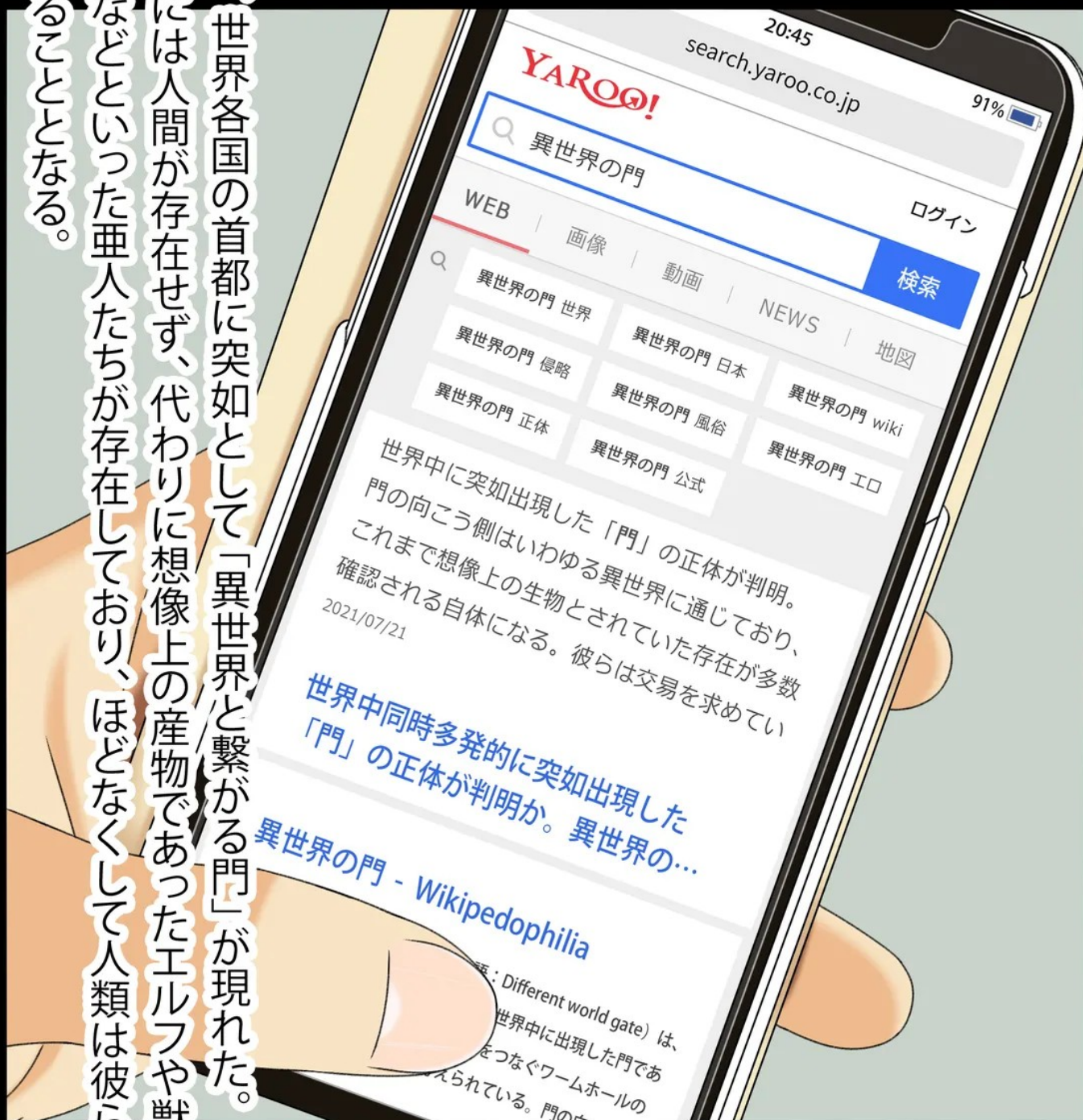
異世界デリヘル
〈妖精の樂園編〉

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

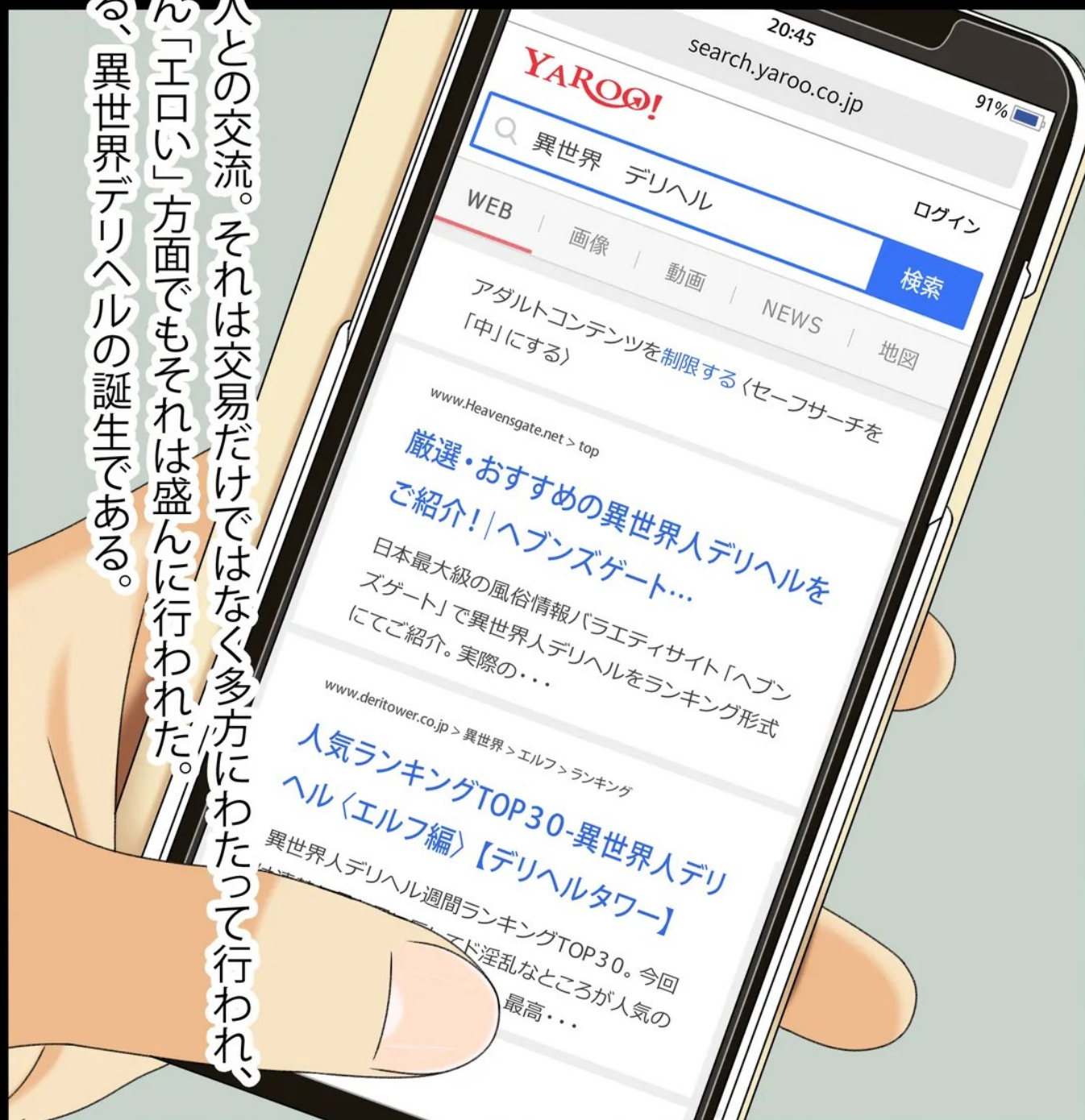


異世界デリヘル
〈妖精の樂園編〉

その日、世界各国の首都に突如として「異世界と繋がる門」が現れた。
異世界には人間が存在せず、代わりに想像上の産物であったエルフや獣人、
吸血鬼などといった亜人たちが存在しており、ほどなくして人類は彼らと
接触することとなる。



異世界人との交流。それは交易だけではなく多方にわたって行われ、もちろん「エロい」方面でもそれは盛んに行われた。いわゆる、異世界デリヘル誕生である。



そのひとつである「妖精の楽園」。
ここに在籍する女の子たちは、皆大好きエルフさんたちであり、
金髪耳長のオーソドックスなエルフから褐色肌のダークエルフまで、
滅多に見られないような美女ばかりなのだ。



というわけで、場所はとあるラブホテル。
今日はエルフの女の子をデリバリーしてみました。

カチャ



「こんにちはー。妖精の樂園から来たレイラです」

このレイラという名前は源氏名で、異世界人の名前は
こちらの人間には発音しにくいのでつけているんだそうな。

まあ、日本のデリヘルだって大抵は源氏名だけど。



「どうしたんです？」

「い、いや……思っていた以上に美人だったから……」

「うふふ、お上手ですね」



お上手なのは君の日本語だろうといたい。

「それじゃあ、お邪魔します」

「ど、どうぞ」



「お風呂はどうします?」

「あつ、先に入りました……」

「そうですか。じゃあ、そのまま始めちゃいます?」

「お、お願いします」

ふ



「ふおおおお……これがエルフの！」

目の前にはエルフの秘所が。陰毛はなくツルツルで、
何か果物みたいな甘い匂いがする。

「それじゃあ啜えますね」



「アハハ」



「はむ……ん、ちゅぷ、ちゅぽ」

「……っ」

なんだこれ、なんだこれ！
超気持ちいい！



「んっ、ぐほ、ちゅほ、ちゅるる……ちゅほ」
「あっ、あっ、やべ、イクら、イツ……くうう！」



「んっ……ふはあー」

「うっ……うっ……」

びゅるっとう射精する。

あまりに気持ち良すぎてすぐに出してしまった。

「うふふ、まだ硬いままですね。

それじゃあこのまま、入れちゃいますっ」

ビュッ
ビュッ
ビュッ



「はあ、はあ、はあ……！」

「落ち着いて、ゆっくり……そう、そのままだに突き出して」

ズボッ

ムネ



「んっ、大きいの入っ...たあ」

日本のデリヘルでは本来本番行為はNGだが、異世界デリヘルは基本本番行為が可能となっている。それどころか、生中(生中出し)が許されていたりする。それは、異世界人の出生率が低くまた人口も少ないため、異世界では進んで出産を推奨しているからだそうだ。異世界人はひとり親で育てるのが当たり前なので、責任をとらないでいいというのもある。



「ふん、ふん、ふん、ふん！」
「はあ、あはあ、凄い……おまんこ気持ちいい」
「出していい？ 膣内に出していい？」



「いいよお、おまんこに精子出してえ。
赤ちゃん種付けしてえ」

「うおおおお……！」

腰を打ちつけ、そのまま勢いよく射精する。
めちゃくちゃ気持ちいいー！

グニョ
グニョ
グニョ





「うふふ、いっぱい出ましたね。
これなら本当に赤ちゃんできるかも」

中出しマジ最高！

「あ、あの、ひとつお願いが……」

「はむ、んん……」

はむ

んん

俺からのお願ひであるお掃除フェラは二つ返事で快諾され、
目の前にはまるでAVのような光景が。





「んちゅ、ちゅっつ……」

ちゅっ!!

尿道に残った精子が搾り取られていく。

「んっ、ぐく……んふう」

……飲んだ、精子飲んだ！

やべえ、勃起がおさまりそうにない。

ゴクン





「うふふ、まだまだデキそうですね」

そう言って上に乗るレイラさん。
……アナル。エルフのアナルが丸見えだ。
しかも入っているところも丸見え……。

「っ
っ」



「うおおおおー!」

「んっ、いきなり激し……んふっ」

エロいエロいエロい。

こんなの我慢できるわけがないだろう。



「んっ、んん……すご
おちんちん、奥まで届いてえ
んん！」
「ふん、ふん、ふん、ふん！」



「あっ、あっ、イキそう……おまんこ
イッちゃうっ！」

「くっ、くっ……出そう
孕め、孕めえ……！」

「イッ……くっ……
子宮にたぐりこんで精子ぎゅるっ！」



「んっ.....」

三回連続はやばい。今までで一番射精した気がする。

「うふふふよかったらまた呼んでね」

「あら」

んっ...

んっ...

そう言っていた彼女だが、その日以来出勤することではなく、
元々レアな出勤だと聞いていたが、
もしかして辞めてしまったんだろうか。

アリン



まあでも、他の娘も美人揃いなのが異世界デリのいいところ。
今日は今日とてダークエルフのランちゃんにアナル舐めをして
もらっているところです。





「んっ、んっ……んはあ」
「あっ、あっ、気持ち……ん」



「んっ、んっ……」

美女にアナルを舐めてもらうとか、天国……いや、楽園だな。
さすが妖精の楽園である。



エロイ

オマ

「ふはあ……」

お尻の穴、ヒクヒクして可愛い。

おちんちんもビクビクンして、イッちゃいそうなの……」

「……うん、うん」

「はいよ。イ・け♡」



「……ぐふうー」

まるでオシッコのようにビュルビュルと射精する。
これはヤバイ。ハママちゃんぞう……。

「あはは、すごい」

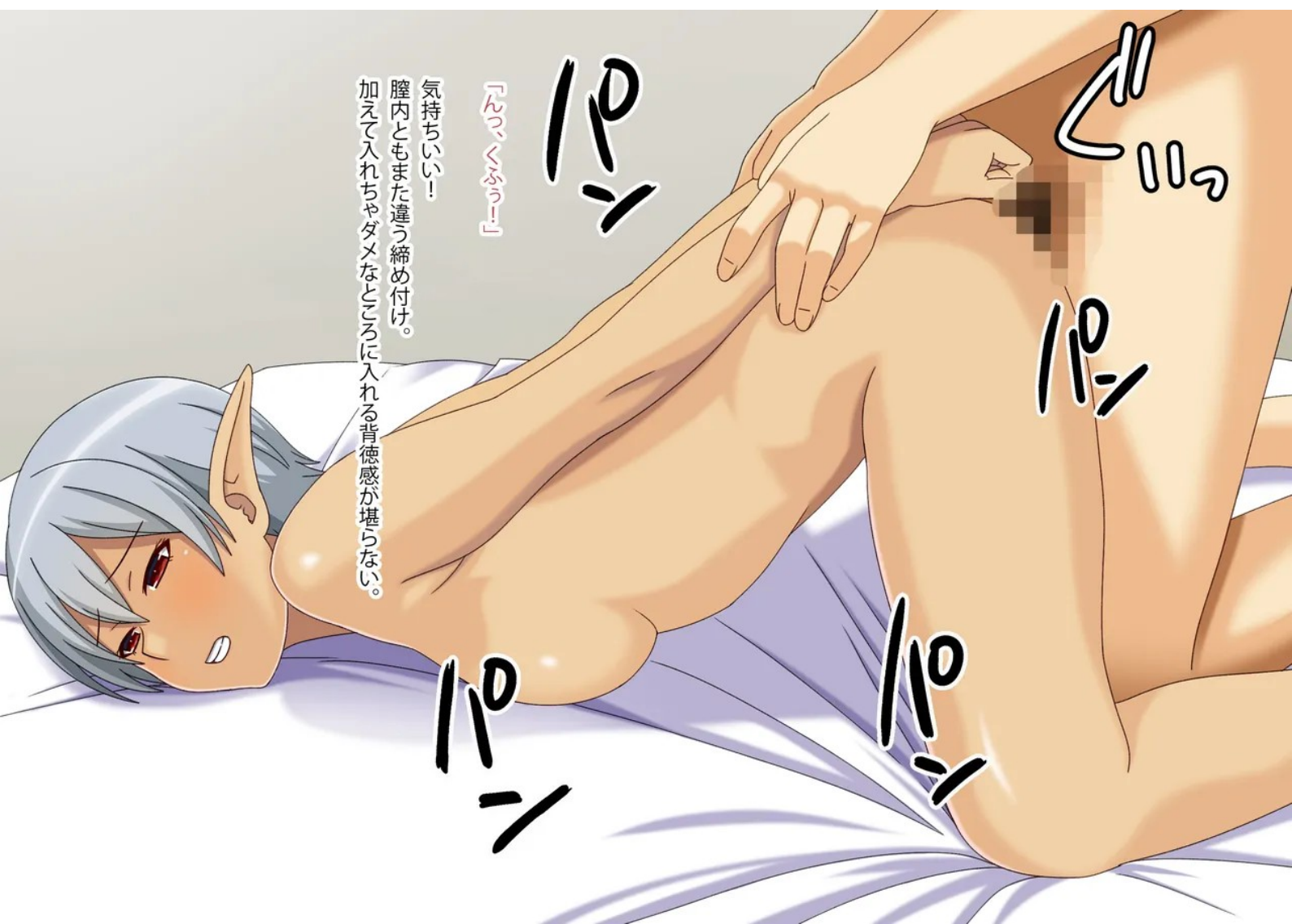
おしっこ



「攻守交代！」

「あん！ そんなにお尻に入れたかったの？」

おうとも。そのためにアナル使用可のランちゃんを呼んだのだ。
レイラさんのアナルを見て以来、ずっとこっちでもやりたいと
思っていた。

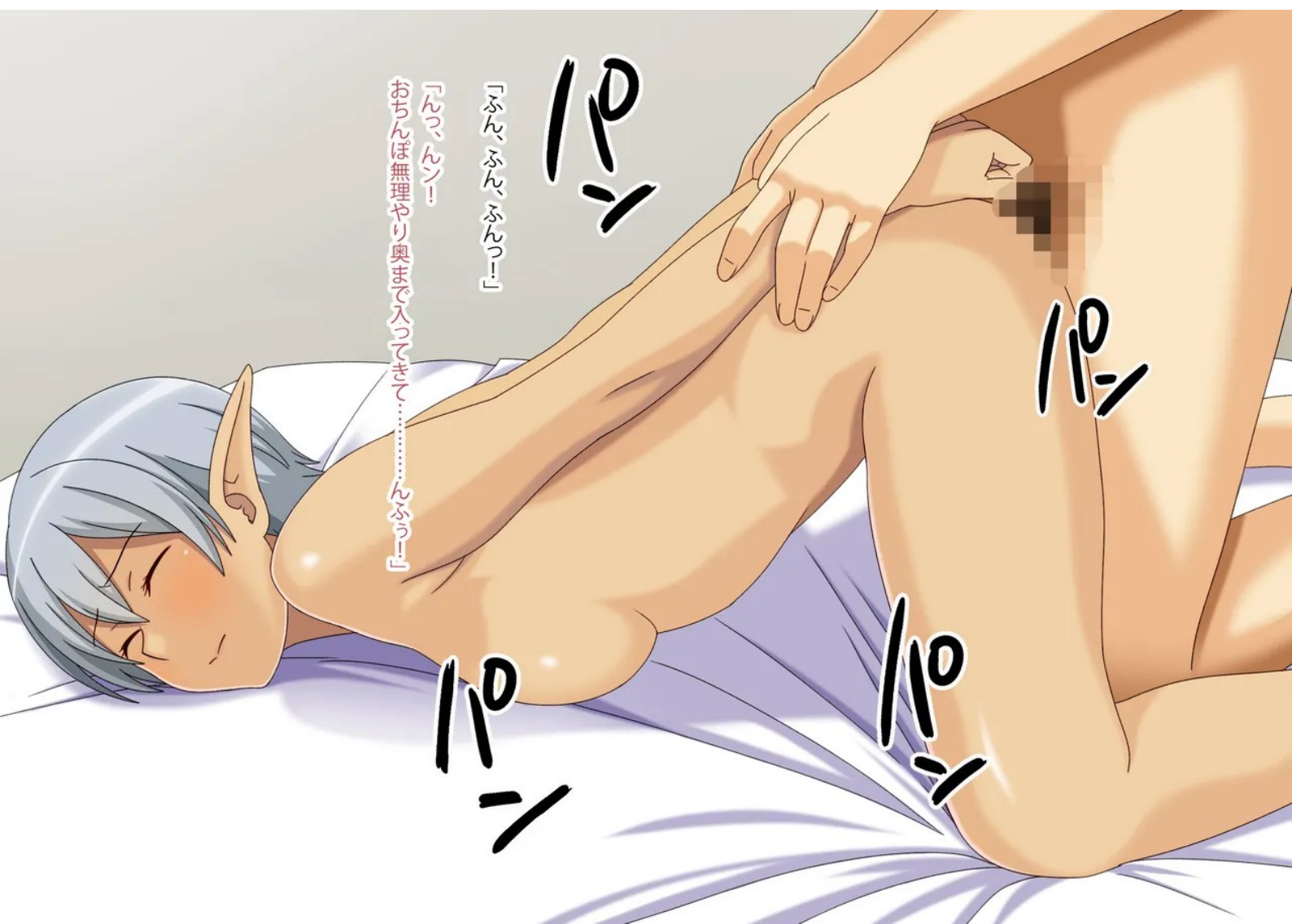


「んっ、くふう！」

気持ちいい！

膣内ともまた違う締め付け。

加えて入れちゃダメなところに入れる背徳感が堪らない。



「ふん、ふん、ふんっ！」
「んっ、んっ！」
おちんぼ無理やり奥まで入ってきて……んふう！」



「あー、イク、イクよ!」

「きてえ、お尻の穴に特濃ザーメンいっぱい出してえ!」

「うっ、くふう!」

ムアッ

「はあ、はあ、はあ………」

「や……広げちゃ………」

レイラさんよりは若干濃いめだけど、綺麗なピンク色だ。



「んっ！」

ズビツという恥ずかしい音とともにアナルから精子が溢れてくる。





「ははっ、
すげえ……」

「いや……ん♡」

「……よいしょと」

「えっ、いや、今日はもう二回出したから休もうかと……」

「ダーメー。私のお尻を散々弄んだ仕返しです」

ムニッ



「うっ、くふう！」

パイズリ超気持ちいい。

レイラさん以降二回も続けてイッたことは
なかったけど、これは……。



「あつ、あつ、ダメ、もうイク、イッちやいそう!」

「いいよ。イケイケ、いっぱい出しちゃえ♡」

↓
↓
↓



「うっー！」

「あはっ、あつーい。」

「三回目なのに、今までで一番出たんじゃない？」

「出ました。」

「てゅるるる」



「……そういえば、レイラさんってお店辞めたの？」

「んっ……………レイラさん？」

ああ、彼女なら妊娠したから今は休業中よ」

「えっ！」

く

はっ、

「彼女、他の仕事もしててレア出勤だったからねえ。
出勤しても短時間だったし、もしかしたら赤ちゃんのお父さんはお兄さんかも」

「……………」



「あは、また大きくなってきた。何、妊娠させたかもしれないって思ってた興奮したの？
それとも彼女の腹ボテ姿でも思い浮かべた？」

「……………」



「へんたーい。ふふ、ついでに私のことも孕ませちゃう？
あつ、でももう時間かあ。……延長、しちゃう？」

「お願いします」

初の連続四回戦に挑戦。やっぱりエルフは最高だぜ！









